



クローバーだより

2018年9月7日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
北野 明子

大人といっしょに体を動かそう!!

秋になり、運動会シーズンになってきました。今回は大人と一緒に体を動かすことをご紹介します。



両手をもってくるりんぱ! 鉄棒の感覚が養えますよ♪



ぶーらんぶーらん! 大人も子どもも頑張っ!

よじ登る! お猿さんになって木に登れるかな?

小さい子どもでも大人と一緒に体操することによって、一人ではできない動きも体験することができます。用具も使わずにでき、室内でも屋外でも楽しめます。最初は上手にできなくても、大人がうまく補助して、子どももコツをつかめば繰り返していきううちに上達していきます。全身を動かすことで、普段では使っていない体の部位や筋肉の発達を促すことができます。大きくて力の強い大好きなお父さんに活躍してもらおうのも、よい親子の遊びの場となり、スキンシップがはかれると思います。周囲に危険な物がないかどうか確認してから行って下さいね。

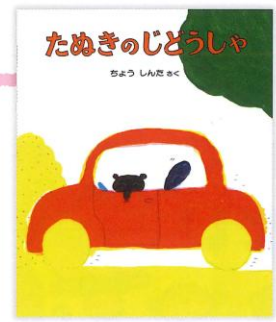


いろいろな動作
挑戦してみよう♪

絵本紹介

たぬきのじどうしゃ

作/長新太
偕成社
1,000円+税
25×21cm
32ページ



この本は1977年初版なので、今から39年も前に出版された本。わたしはこの本を、内容を暗記してしまうくらい何度も読んできた。「ぼん ぼん ぶうぶう ぼん ぶうぶう……」というページを読むのが若いときには、なんだか恥ずかしいような、長すぎてめんどくさいような感じだったのだけれど、子どもたちのリクエストに応じて読むうちに読むのがだんだん楽しくなってきた。年少のかいくんは、たぬきがかえるのかいぶつにつかまりそうになったとき「だいじょうぶだよ、くるまにのってるから」と言っていたのだけれど、車ごとつかまってしまうとびっくりした顔に。最後はころころがって丸くなってしま車。「この じどうしゃは どうやって はしるのかしら。」と読むとだいちゃん、その場でぐるんと回ってみせてくれました。

2歳児~

ぼくはブルドーザー!

作/三浦太郎
こぐま社
1,100円+税
21×23 cm
36ページ



三浦太郎さんが描く車はカッコいい。この手描き風のショベルカーの表紙を見ただけで、欲しくなりました。ロードローラーやショベルカーやクレーン車になりきって砂と格闘する男の子。その真剣な表情に、見ている子どもたちも真剣な表情になっている。「ぼくひとりてつくるんだ」というところが子どもたちに魅力的。こんな風に夢中になっている子どもを描くときには大人は登場しないなあと思っていると、最後にはお父さんが登場してリフト車となっておうちへ帰る。最後のページに絵本を作りながら子どもの頃の自分と対話ができたと三浦太郎さんの「砂場の思い出」という文章があった。園ではみんなで仲良しが大事とされるので、砂場で黙々と一人であそぶことが許されることが多いけれど、大人になっても思い出せる、こんな時間を子どもたちに保障してあげたいなあと思う。

2歳児~

がたごとがたごと

文/内田麟太郎
絵/西村繁男
童心社 1,300円+税 B5判 32ページ



この本の電車は「がたごと がたごと」と街中から畑の中、山の中、トンネルの中、そしてだんだん不思議な場所から昔の時代へとどんでん走っていく。その中でお客が乗ったり、降りたりする。何度見ても不思議な絵本。電車が走っているページの背景に描かれているネコやイヌ、チョウチョやコイなどを見ているだけでも楽しいのだけれど、電車が駅に止まっているときに乗り降りする人たちがひとりひとり（いっぴきいっぴきのページも）が生きて動いている。ひろちゃんは「ちよっとまって! このおばけ、さっきのページの人とおなじぶくじやない?」と大発見。年長にもなるとそこに登場する人たちの変化にちゃんと気づく。絵本を囲んで子どもたちと楽しい時間が過ごせる1冊です。

2歳児~

どうろこうじのくるま

作・絵/こわせもりやす
偕成社
1,200円+税
25×21cm
32ページ



働く車の描かれている本はたくさんある。車の図鑑もあつたりする。この『どうろこうじのくるま』は図鑑ではない。車の前から見た絵と後ろから見た絵が描かれているページをめくると、精巧に描かれた車がちゃんと動いていて、それを運転する人やそこで働いている人が描かれている。働いている人がいることで車の大きさもわかる。2歳のゆうくんは「モーターグレーダー」をちゃんと知っているのが驚いた。小さな字で「ハンドルとたくさんあるレバーをどうじにうごかすうんはたいへん」と書かれていたりするので、大人のわたしもなるほどと思う。たっくんは「何食べてるの?」とカバーに描かれた休憩中の人も見逃さない! 小さい子どもでも読めるように全部ひらがなで書いてあるのだけれど、車はちゃんとカタカナで書かれているのでカッコいい!

《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな?と不安に思われた時、こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか? 保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、ご都合の良い日を決めさせていただきます。

TEL 0561-36-8373 お電話お待ちしております



嫌いな野菜はこうしてみよう

子どもは、野菜の形や色などの見た目ですぐに「嫌だ」と思い込んでしまうことがあるようです。それを無理に「食べなさい」と言うのは逆効果。そこで、嫌いな野菜に触れる機会を作ってみましょう。子どもはお風呂におもちゃを入れることが大好きなように、触ったり水で洗ったりしているうちに、たとえ嫌いな野菜でも、徐々に愛着がわいてくるものです。また、嫌いな野菜を子ども自身が型抜きして、シチューやカレーに入れるのもよい方法です。まずは、「嫌だ」という気持ちを取り除いてあげることから始めましょう。

